

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市精神保健福祉審議会				
事務局 (担当課)		精神保健福祉課 電話042-769-9813(直通)				
開催日時		令和3年3月10日(水)～3月19日(金)				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	2人(精神保健福祉センター所長 他1人)				
	事務局	5人(精神保健福祉課長 他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため				
会議次第		<p>審議会</p> <p>1 議題 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進に係る取組について</p> <p>2 報告 (1) 令和2年における相模原市の自殺者の状況について (2) 精神障害者保健福祉手帳のカード化について</p>				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の意見、 は事務局の説明)

(審議を書面等で行った理由)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、書面により審議会委員からの意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

1 議題

精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進に係る取組について事務局より説明資料の送付を行い、書面により審議を行った。

- 4ページのイメージ図に記載があるが、当該システムを構築していくに当たり、企業や自治会等が関与していくとなれば、精神疾患に関する地域住民等への普及啓発がますます重要になってくると思う。現在、どのように取り組んでいるか。

メンタルヘルス市民講座を年1回開催し、精神疾患の理解やこころの健康について普及啓発を行うとともに、10月の精神保健福祉普及運動期間では、各区でこころの健康に関する展示を実施している。また、精神保健福祉センターでは、「こころの病気」や「メンタルヘルス」等をテーマに、市民向けの「まちかど講座」を開催している。

精神障害者の家族支援により、精神障害者の家庭内暴力問題の解決に結び付くか。

家族の支援はとても重要だと認識している。各区相談窓口では家族からの様々な相談を受け、病気の理解や対応について助言を行うほか、家族教室も開催し、家族支援に取り組んでいる。

精神障害者が医療、相談支援、福祉サービス等の地域資源・サービスを利用し、重層的に支援を受けられる当該システムの構築は重要である。社会参加し、自己肯定感を増すことが有意義であるため、アウトリーチや雇用促進に努めてほしい。

精神障害者が安心して暮らせるような地域の体制を作るため、多機関との連携を深め、当事者の自己実現を支援するための取組を推進していく。

障害分野と高齢分野との連携は、これまでも地域の現場サイドで実際のケースを通して様々な形で行われてきた。また、自立支援協議会においても、支援観や制度・システムの違いを踏まえた上で、高齢分野とどのように連携し、切れ目のない地域での支援ができるかを検討している。8050問題も含め、課題解決に向けて共に考えていけるような研修や意見交換ができると良い。

市では、令和2年度に地域包括ケア推進部を新設し、高齢者や障害者の分野など、制度の垣根を越えた一体的な支援に向けて取り組んでいる。次年度においては、高齢者関係機関をはじめ、地域の支援者向けの研修や事例検討の開催を予定している。

グループホーム等の施設に入居されず親元に帰る人については、本人だけでなく

家族に対する支援レスパイトケア等も必要である。医療保護入院患者についても、大変な事情を抱えている場合もあることから、支援の手を差し伸べてほしい。

医療機関から退院される場合、その多くは自宅に帰っていることから、単身者だけでなく家族のある方についても、地域で安心して暮らせる支援が欠かせないと認識している。家族の負担を軽減するためにも、医療機関及び地域の相談機関の充実や連携を強化し、障害福祉サービスや訪問看護の利用等を提案している。

依存症に対する差別や偏見、病気に対する知識のなさや自立のチャンスの妨げになっている実態が依然としてある。また、コロナ禍において、そのような方の回復や自立へのサポートが後回しになっているのではないかと懸念している。以前から相模原市の地域移行支援ピアサポーターとして普及啓発活動にご協力させていただいているが、地域移行に貢献するため、更なる関わりの場を増やしていただきたい。

依存症全般に関する普及啓発については、コロナ禍においても、精神保健福祉センターを中心に、各区フロア展示等により機会を捉えて行っている。貴団体の構築推進会議への参画等については、今後検討させていただきたい。

ReMHRADを学術的に利用することが可能であるかに興味がある。

ReMHRADの資料は、地域特性や課題を分析するのに有効なものであることから、活用を進めているところである。

「にも通信」をEメールでも配信していただければ受信したい。

今後、審議会委員の方にも配信させていただきたいと考えている。

2 報告

事務局から説明資料の送付を行い、書面により報告を行った。

(1) 令和2年における相模原市の自殺者の状況について

市内の自殺者が前年比でかなり増えている。県内・全国は微増だが、市内は大幅増と言える状況に見えるが、何か原因はあるか。

令和2年における自殺者数の増加については、令和元年までの年間自殺者数は増減を繰り返しながらも減少傾向にあったことから、コロナ禍の影響があるものと推測される。国や県と比べて大幅増となっている原因としては、コロナ禍による悪影響が県や国と比べて大きかった可能性もあるが、人口規模の小ささによる偶然の変動も関与していると考えられる。

(2) 精神障害者保健福祉手帳のカード化について

精神障害者保健福祉手帳の様式を選択できるようになることはよい。カードの手帳は持ち運びが便利だが、自由記載欄(メモ)欄が少なくなることが気になる。

それぞれの様式にメリット・デメリットがあることから、丁寧に周知していく。

以上

相模原市精神保健福祉審議会委員 出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	齋藤 正範	北里大学医学部		出席
2	堀越 由紀子	東海大学健康学部		欠席
3	藤田 寛之	神奈川県弁護士会	会長	出席
4	住吉 秋次	相模原市医師会		欠席
5	増田 直樹	神奈川県精神科病院協会		出席
6	鈴木 秀美	相模原市社会福祉協議会		出席
7	羽田 彌	相模原ボランティア協会		出席
8	堀越 恵美子	相模原市障害者地域作業所等連絡協議会		欠席
9	中谷 正代	相模原市障害者地域作業所等連絡協議会		出席
10	池田 陽子	神奈川県精神保健福祉士協会	副会長	欠席
11	三好 一郎	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
12	片岡 加代子	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
13	田中 秀泰	相模原ダルク		出席